

- 高齢者がICTを使ってコミュニケーションの活性化を図るため、ICTの使い方を学び、教え合うことができる場を確保（公民館・学校の空き教室等）するとともに、育成コンテンツの作成のほか、ICTサポーターの配置、シニアボランティアによるICT講習の実施を通じてたICTリテラシー向上のための実証研究を行う。

超高齢社会における課題

- ・ コミュニティ意識の希薄化
- ・ 高齢者の孤独・孤立化が社会問題化
- ・ 地域内のコミュニケーション活性化

解決策と問題点

これら課題を解決するため、コミュニケーションツールとしてのICTは有効



多くの高齢者はICTを利用するためのリテラシーの向上が必要

■ 実証研究の主な内容

①リテラシー育成コンテンツ等の作成・検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットの普及、スマートフォン等の急速な拡大により、不特定多数で個人情報の利用を前提としたクラウドサービスを利用する際のICTリテラシーを確保するための育成コンテンツを作成し、既存システムに追加。
②講師等の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域毎にICTリテラシーの高いシニアボランティア等を配置し、定期的に講習等を開催。 ・ 地域毎に協議会等を組成し、ICTリテラシー向上のための取組を計画的・継続的に実施する体制を整備する。
③実証フィールドの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館等に加え、学校等の空き教室等の利用などによる学びの場を拡充する。

①ICTリテラシー育成のためのモデルシステム

ICTリテラシー育成プログラム受講



開発済み(24年度)システムの活用と教材の拡充

②講師等の配置

サポーター シニアボランティア



③実証フィールドの拡充



学びの場

※「学びの場」となる公民館、学校等の活用は文部科学省の協力を得て確保

仲間づくり・生きがい・交流

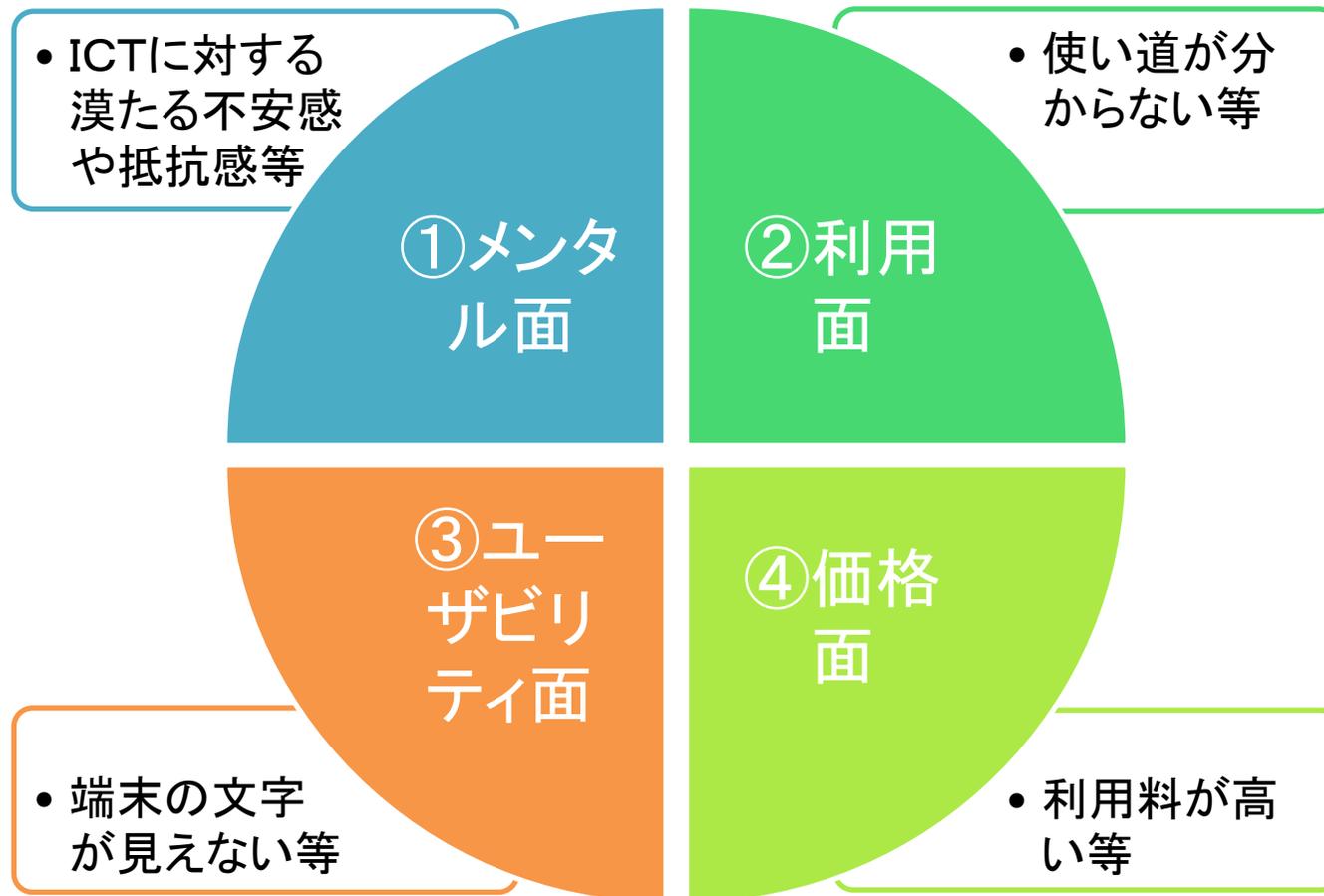


SNSでの交流
情報発信
ボランティア活動
地域活動への参加 等



⇒成功事例を全国へ展開し、高齢者のICTリテラシーの向上を実現

○ ICT超高齢社会構想会議において、地域のコミュニケーションの活性化を図るためには、ICTを単なる「情報取得」のツールとしてとらえるのではなく、「情報発信・交流」のツールとして活用していくことが重要と指摘されており、高齢者が積極的にICTを利活用できる環境を整備する必要がある。



⇒ 本事業は講師による講習会等を通じ、①、②の障壁を取り除き、高齢者が安心・安全にICTを活用し、仲間づくりや交流を促進するための動機付けを主眼としているものである。また、本実証研究を通じ、③、④の障壁についての検証にも資するものである。

ご清聴 有り難うございました

